

剥落しているが、墨書は中央に整えて三行書きされており、この三行で完結するものと考えられる。文意は不明である。なお、釈読及び写真撮影は新潟大学の小林昌二氏による。
(小池邦明)

新潟・上郷遺跡



(新潟)

所在地	新潟県中蒲原郡横越村字上郷
調査期間	一九九三年（平5）四月～一月
発掘機関	新潟県教育委員会・財新潟県埋蔵文化財調査事業団
調査担当者	赤羽正春
遺跡の種類	集落跡
遺跡の年代	古墳時代前期・平安時代中頃

上郷遺跡は、新潟市の南東約一五kmに位置し、阿賀野川左岸の自然堤防上に営まれた遺跡である。

発掘調査は、国道四九号線横雲バイパスの建設に係り、一九九二年から三年間行なった。調査の結果、平安時代中頃の遺構・遺物が主体を占め、遺構は掘立柱建物・土坑・溝・水田・畝状遺構などが検出された。

遺物は、土器が中心である。

木簡は、遺物包含層の上部から出土した。木簡以外の文字資料としては、底部外面に「王」と読める墨書のある須恵器無台杯二点が一九九二年の調査において出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 一斗伍升

・を□もいて□

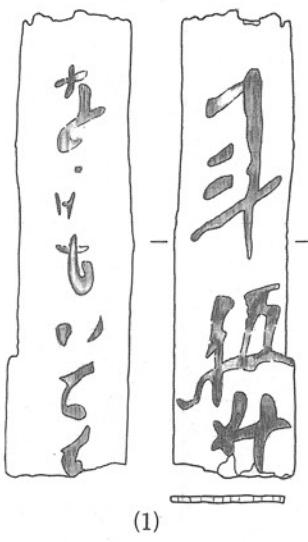
□□

(87)×22×2 081

091

文字の判読は、赤外線テレビを用いて行なった。(1)「一斗伍升」については比較的容易に判明したが、「を□もいて□」については判読不能との意見もあった。木簡の上下は折れている。左右は、左

側は原形を保っているが、右側は下四分の一が原形をとどめ、上部は欠失している。発掘調査の整理報告が行なわれていないため、木簡の性格や所属年代については現時点では不詳である。
(寺崎裕助)



(1)

(2)